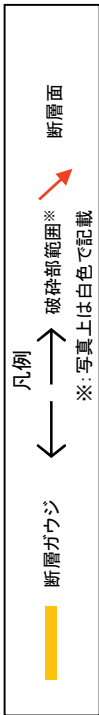
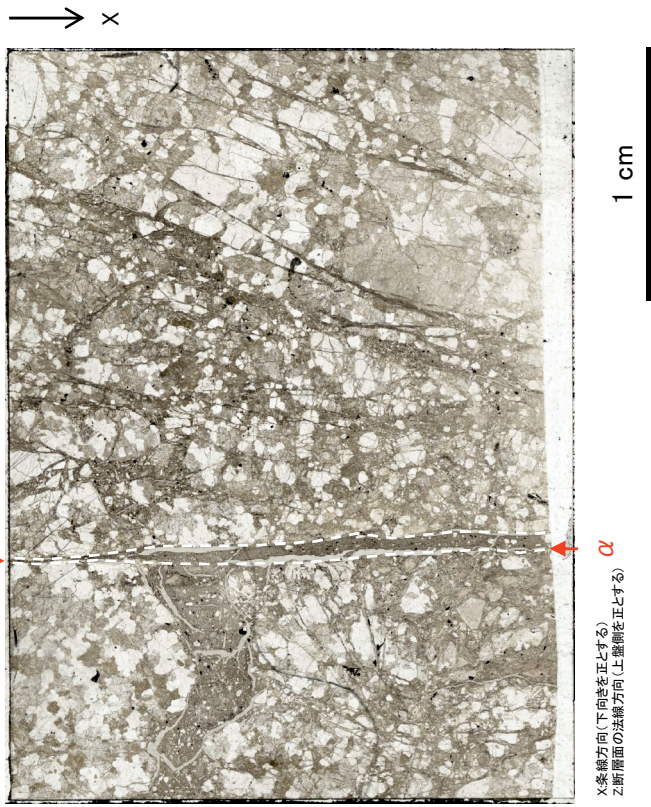


・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

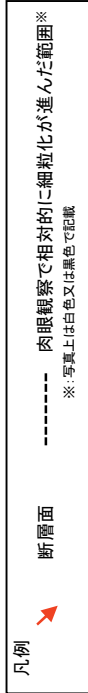
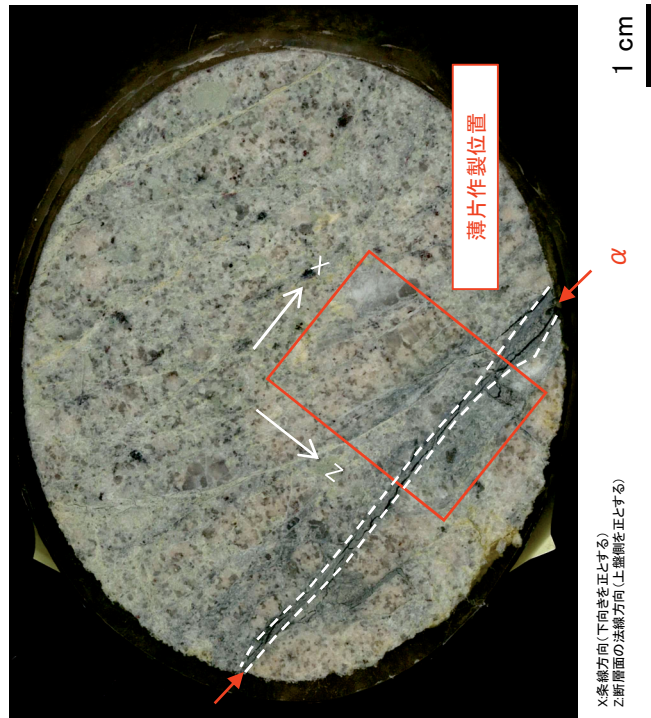
コア写真



薄片全景写真(単ニコル)

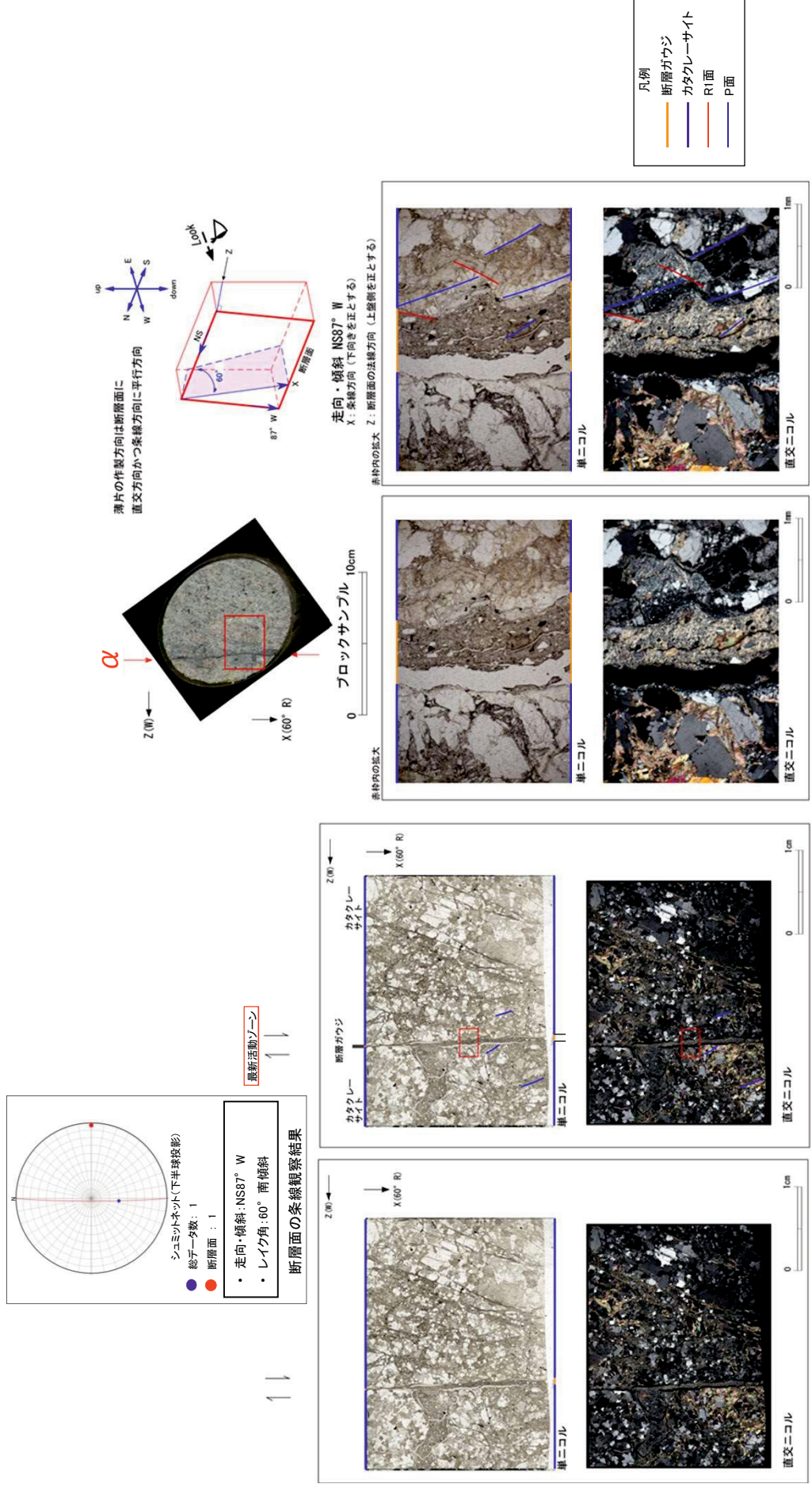


薄片作製位置写真



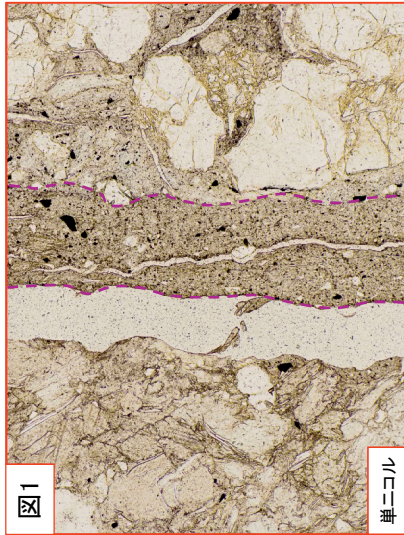
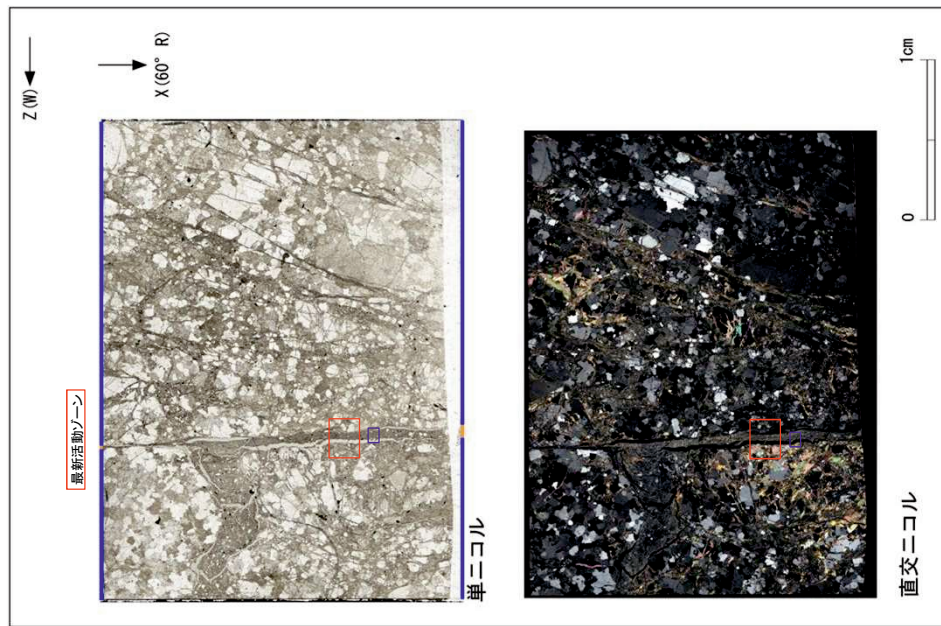
・H24-E'-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 ➢ (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 ➢ (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 ➢ (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 ➢ (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
 ➢ 岩片は少ない。

※断層面 α は最新活動面

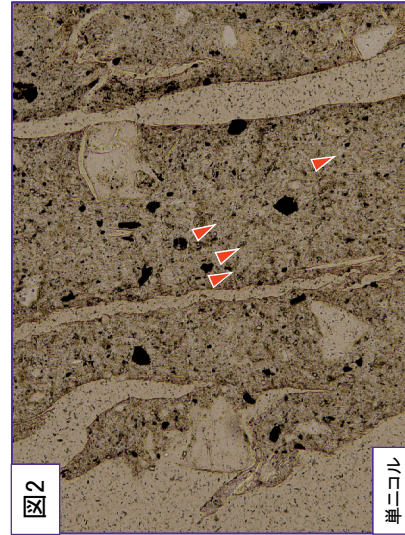
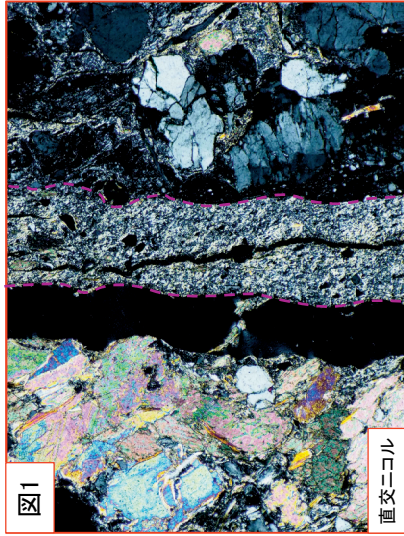


第7.4.4.390図 (4) K断層 破碎部性状 H24-E'-2 深度18.24~19.45m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

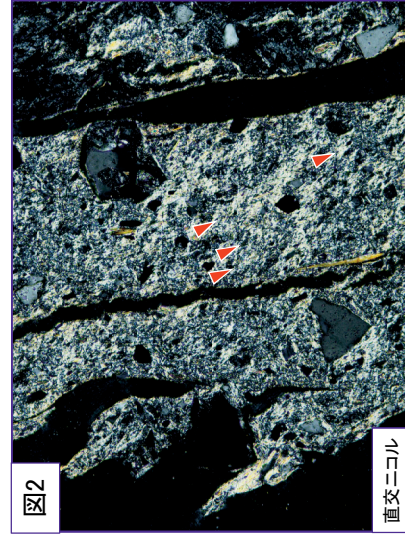
- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す



赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



(肉眼観察結果 深度 18.86m)

- 肉眼観察では、砂混じり粘土状部は、軟質で、湾曲し直線性に乏しいが連続性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - セン断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

- 当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。
- 肉眼観察で確認された砂混じり粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
 - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.8	有

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

H24-H-13 深度8.89~9.80m ボーリングコア観察 肉眼観察による断層岩区分



- ・深度8.89~8.92mの「礫混じり粘土状破砕部(Hc-2)」と記載の箇所については、やや軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度8.92~9.80mの「粘土混じり岩片状破砕部(Hj)」と記載の箇所の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破砕部性状の記事

- 8.89~9.80m:破砕部(K断層)
8.89~8.92m:礫混じり粘土状破砕部(Hc-2)
上端55°, 下端55°で、上端はやや波打って、下端はほぼ直線的にシャープに連続。径1~5mm石英粒、φ5~10mm亜角礫~長さ10~20mm、幅2~3mmの扁平礫を含む。礫は粘土化することが多い。また、上端に幅0.5~1mmのやや締ったにぶい橙色の粘土脈が分布する。にぶい赤褐色を呈する。幅20~25mm。
8.92~9.80m:粘土混じり岩片状破砕部(Hj)
上端55°, 下端60°で、上端はほぼ直線的でシャープに、下端はやや不明瞭に連続。径5~80mmの粘土化~砂状化した花崗斑岩岩片間を縫うように幅1~3mmの白色の軟弱粘土脈が網目状に分布する。にぶい黄橙色を呈する。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

深度8.89~8.92mの連続性及び直線性が良い礫混じり粘土
 細粒部が網目状に分布する



青枠部拡大

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



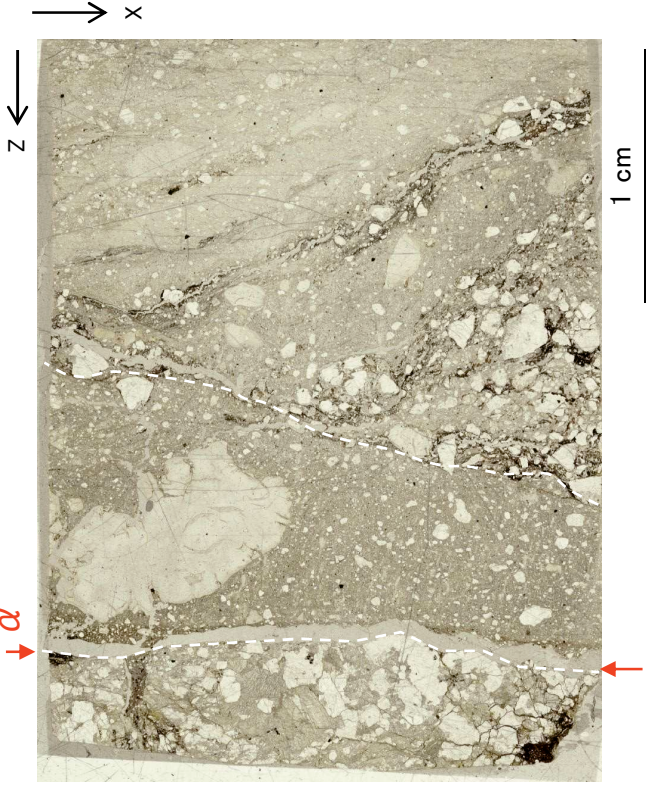
※断層面 α は最新活動面

凡例

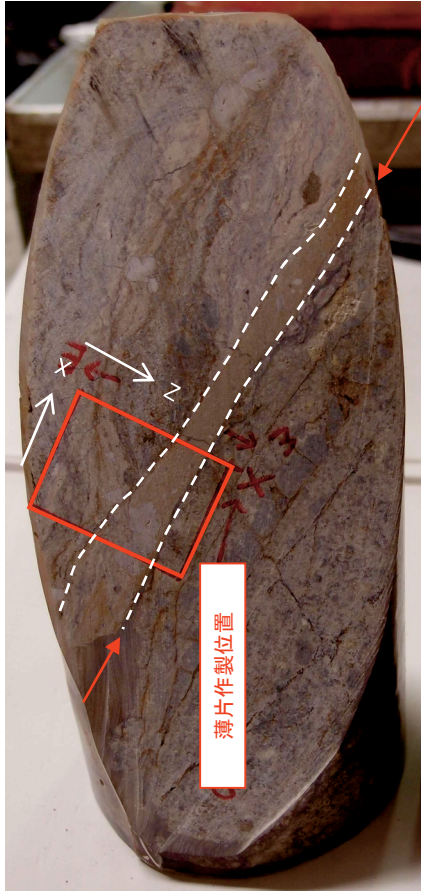
- 断層ガウジ
- ←
-
- 破碎部範囲※
- 断層面

※: 写真上は白色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X: 糸綫方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)



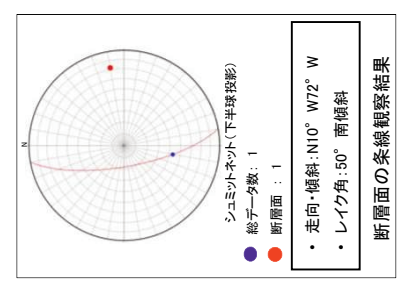
X: 糸綫方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

凡例

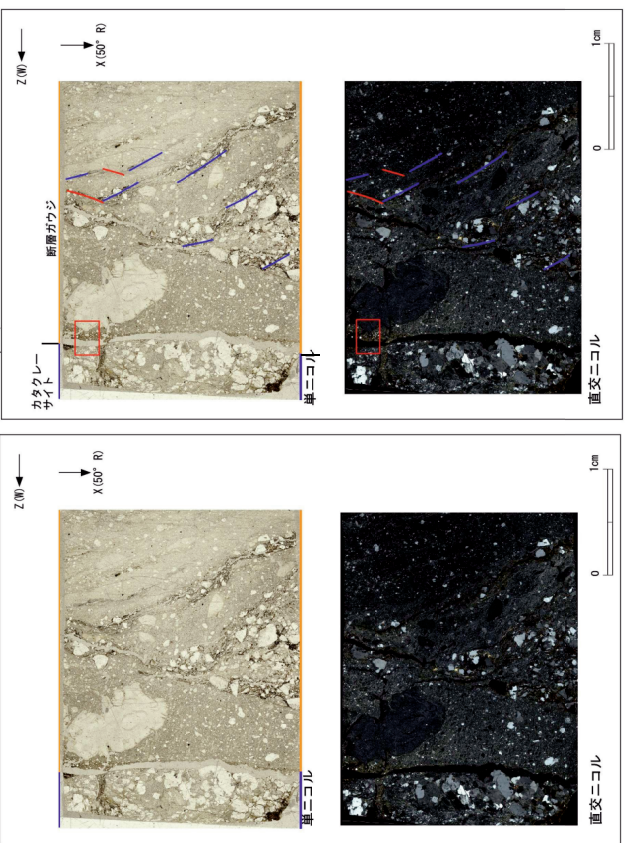
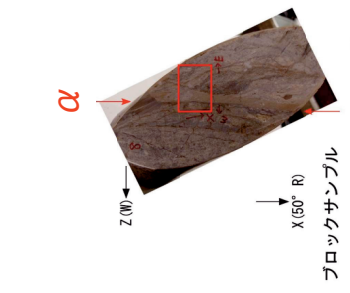
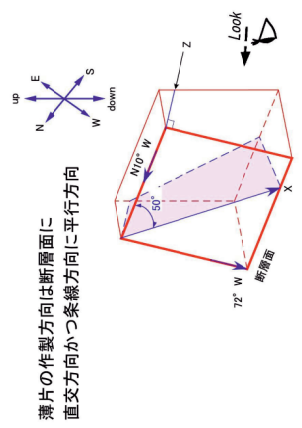
- 断層面
-
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

・H24-H-13のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められる。両者の分布から、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられ、断層ガウジと判断した。
 ➢ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 ➢ (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 ➢ (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 ➢ 岩片は少ない。
 ➢ (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



※断層面 α は最新活動面



走向・傾斜 N10° W72° W
 X: 条線方向 (下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向 (上裏側を正とする)

凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R面
P面